

地域の情報

自立活動を学び合う会の実践について

長谷川 哲*・小林 俊 人**

1. 自主活動を学び合う会の概要

私たち自立活動を学び合う会は、上越教育大学の先生を中心に、上越市及びその近隣地域の特別支援教育に携わる20代、30代の若手教師や大学院生で構成している。当会の目的は、参加者一人一人が自立活動に関する様々な課題意識をもち、解決にむけて意見を交流したり、自らの指導実践を振り返り、特別支援教育に携わる教師としての専門性を高め合ったりしていくことである。

この会の特徴として、参加者全員が自立活動に関するレポートを持ち寄り、1グループ4人程度でKPT（ふりかえりに適している、「Keep」、「Problem」、「Try」の視点でとらえる「思考フレームワーク」）の方法を用いて検討している。1事例50分間で良かった点、課題点、改善策を付箋紙に記入し、可視化しながら収束している。最後には、グループごとの発表を行い、参加者全員で共有する時間も設定している。会の終わりには、参加者に事後アンケートの記入をお願いし、会の運営改善に努めている。このように、参加者が主体的に参加できるように工夫している。

活動は、上越教育大学を会場におおよそ2ヶ月に1回のペースで行われ、以下のような内容の事例が出され、意見交換を重ねてきた。

2. 実践紹介

○H26年2月10日（土）AM10：00～15：10

第1回定例会：参加者11名

- ・的確な実態把握に基づいた個別の指導計画の作成と自立活動の指導
- ・相手に自分の気持ちを伝えるコミュニケーションを目指して
- ・個別の指導計画作成にあたっての問題点について
- ・MNさん臨床実習後期まとめ
- ・Aさんの自立活動について

○H26年5月10日（土）AM10：00～15：20

第2回定例会：参加者15名

- ・特別支援学級生徒の実態把握における現状と課題
- ・個別の指導計画作成の実践
- ・今年度の校内研究体制について～外部専門家との連携を活かした自立活動研修～
- ・特別支援学級における個別の指導計画について

- ・自立活動・個別の指導計画の現状と課題
- ・自立活動の個別の指導計画作成について

○H26年8月2日（土）AM10：00～15：20

第3回定例会：参加者10名

- ・特別支援学校の校内研修における自立活動部の役割
- ・個別の指導計画作成についての現状と課題
- ・生徒の実態に応じた教科指導
- ・個別の指導計画作成、活用の実践
- ・自立活動を学び合う会の実践について
- ・自立活動、個別の指導計画の現状と課題
- ・1学期の授業の取組と課題
- ・個別の指導計画と今後の生徒の指導について
- ・市内保育園に通うAさんについて

○H26年9月27日（土）10：00～15：30

第4回定例会：参加者15名

- ・自立活動の授業実践について
- ・自立活動と教科の関連と自立活動の理解
- ・見通しや意欲をもつ授業の工夫
- ・個別の指導計画、評価について
- ・肢体不自由特別支援学校の集団授業における授業記録の実態について
- ・幼児の個別の指導計画について
- ・特別支援学校が組織的にセンター的機能に取り組むために
- ・自立活動の時間における肢体不自由児の主体性に対する教師のイメージと指導の実態
- ・肢体不自由特別支援学校における児童生徒間のかかわりを促す教師の取組について
- ・「自立活動専任」の存在・役割と地域支援部の確立
- ・個別の指導計画と指導の実践

○H26年12月6日（土）11：00～15：30

第5回定例会：参加者10名

- ・自立活動の個別の指導計画について
- ・特別支援学級の個別の指導計画作成と評価について
- ・肢体不自由特別支援学校における児童生徒間のかかわりを促す教師の取組について
- ・個別の指導計画と指導の実践
- ・集団の自立活動について
- ・A児における目標設定と指導・支援
- ・生徒の変容と対応の課題

* 妙高市立にしき特別支援学校

** 妙高市立新井中央小学校

3. 参加者の事後アンケートから

本会をより良くしていこうという視点から、参加者から毎回、事後アンケートを記入していただいている。以下にアンケートの主な内容を示す。

○参加して良かったこと

毎回、「自校以外の方と意見交流ができたことで、自らが抱える課題について、参考となる意見やアイデアを多くいただいた。」という内容の回答が最も多い。次に多い内容としては、「自身の課題の整理ができた。」や「新たな課題を発見できた。」などである。他には、「KPTという収束方法を用いたことで短時間で効率的かつ具体的な話し合いが行われた。」や「話しやすい雰囲気だった。」、「フリーディスカッションや1事例について全員で考える時間が良かった。」などの回答もあった。

若い教師の課題を改善できる場として機能していることがアンケートから明らかになった。会としての目的を達成できていると考える。

○参加して残念だったこと

「他グループの意見も聴きたかった。」、「個人としてあまり話せなかった。」などという回答が多くある。他グループの検討のまとめを掲示したり、進行役が発言量に偏りがでないよう配慮したりして改善のための工夫を行っている。今後も改善のための努力を行っていききたい。

他にも施設運営に関する課題（例えば「教室が暑い。」や「参加者が少ない。」、「雪の日は参加することが大変。」など）が挙げられている。日程や開催場所の調整と広報活動は継続して行っていきたい。

4. 今後の方向性

自立活動をテーマに研修している自主サークルがつくばや長崎にもある。それらのサークルと連携することで、若手教師の専門性をさらに高められると考える。その一環として、10月につくば自立活動研究会、長崎自立活動研究会とともに通信ツール（スカイプ）による研修会を実施した。文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の分藤賢之先生の講演を拝聴することができた。今後は、各地域での実践の情報交換を行いながら専門性の向上に努めていきたい。

加えて、自立活動を学び合う会として研究活動に取り組んでいきたい。その結果を様々な場で発表することで会としての実績が積み重なり、広報活動の一助にもなると考える。今後どのような研究活動ができるのかを検討し、実践や研究を通して、教師としての学びを深め合う機会を増やしていきたい。

さらに、参加者の研修ニーズにも応えていくことができるように研修内容の検討を行っていききたい。外部講師による講演やフリーディスカッション、シンポジウム形式での事例検討など様々な形態を考え、研鑽を積み重ねていきたい。